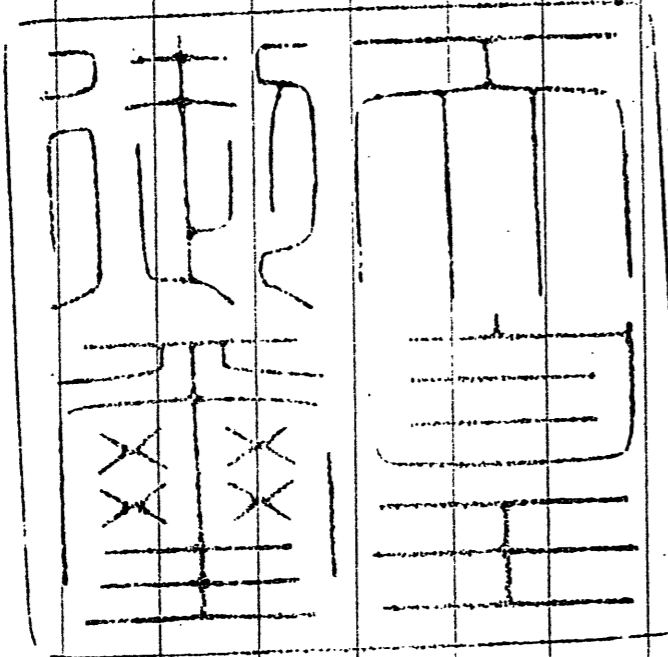


勅令第三百三十號

朕引揚援護院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ  
公布セシム

裕仁



昭和二十一年三月十二日

内閣總理大臣男爵 幣原喜重郎  
 厚生大臣 芦田均

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

勅令第百三十號

引揚援護院官制

第一條 引揚援護院ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ今次ノ戰爭ノ終結ニ依リ

内地（樺太、沖繩及千島ヲ除ク以下同ジ）以外ノ地域ヨリ内地ヘ引

揚ゲタル者及内地ヨリ内地以外ノ地域ニ引揚グル者ノ應急援護及檢

疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 引揚援護院ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 勅任

次長 勅任

局長 二人 勅任

地方引揚援護局長 專任十一人  
 地方引揚援護局次長 專任二人ヲ勅任ト

援護官 專任百八十八人 奏任

技師 專任二百十五人 奏任内二人ヲ勅任ト  
爲スコトヲ得

援護官補 專任三百九十二人 判任

技手 專任三百六十四人 判任

援護局長ハ次長ヲシテ之ヲ兼ネシム

第三條 前條ノ職員ノ外地方引揚援護局ノ事務ニ從事ヒシムル爲厚生

大臣ハ關係各廳高等官ノ中ヨリ援護官ヲ、關係各廳判任官ノ中ヨリ

援護官補ヲ命ズルコトヲ得

第四條 引揚援護院ニ援護局及醫務局ヲ置ク

各局ノ事務ノ分掌ハ厚生大臣之ヲ定ム

第五條 厚生大臣ハ院務ノ一部ヲ分掌ヒシムル爲地方引揚援護局ヲ設  
クルコトヲ得其ノ名稱及位階ハ厚生大臣之ヲ定ム

第六條 地方引揚援護局長ハ當該地方引揚援護局ヲ管轄スル  
地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 地方引揚援護局ハ其ノ事務ヲ行フニ付必要アルトキハ當該地  
方ニ於ケル關係各廳ニ對シ共助ヲ求ムルコトヲ得

第八條 引揚援護院ニ參與二十人以内ヲ置キ院務ニ參與ヒシム  
參與ハ厚生大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之  
ヲ命ズ

參與ノ任期ハ一年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ  
解任スルコトヲ妨ゲズ

第九條 貴官ハ厚生大臣ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ  
指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第十條 次長ハ長官ヲ佐ケ長官事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 局長ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十二條 地方引揚援護局長ハ長官ノ命ヲ承ケ地方引揚援護局ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 地方引揚援護局長ハ地方引揚援護局長ヲ佐ケ地方引揚援護局ノ事務ヲ掌理ス

第十四條 援護官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十六條 接護官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

附則

第十八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 地方引揚援護局官制及昭和二十年勅令第六百十一號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 厚生省官制中左ノ通改正ス

第十二條 削除

第二十一條 厚生部内臨時職員設置訓中左ノ通改正ス

「書記官」	專任三人	「理事官」	專任一人
「事務官」	專任二人		
「理事官」	專任二人		
「技手」	專任九人	「技手」	專任一人

第四條ノ二ヲ削ル

第二十二條 高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第八條中「醫療局長官」ノ次ニ「引揚援護院長官」ヲ、「農林省參次官」ノ前ニ「引揚援護院各局長」ヲ加ヘ「醫療局次長」ヲ「引揚援護院次長」ニ改メ「厚生技監」及「厚生省防疫官」ヲ削ル

第十四條中「地方引揚援護局次長」ヲ削リ「醫療局調劑官」ノ次ニ「地方引揚援護局次長」ヲ加フ

別表第一表厚生省ノ部中厚生技監ノ項及地方引揚援護局次長ノ項ヲ削リ厚生省防疫官ノ項ヲ左ノ如ク改ム

引揚援護局長	同	上
引揚援護局長	同	上
各局長	同	上
地方引揚援護局長	同	上

第二十三條 本令施行ノ際現ニ地方引揚援護局職員ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發シラレザルトキハ地方引揚援護局次長ハ地方引揚援護局次長ニ、厚生書記官、厚生事務官及厚生理事官ハ引揚援護院援護官ニ、厚生技師及厚生省防疫官ハ引揚援護院技師ニ、厚生屬ハ引揚援護院援護官補ニ、厚生技手ハ引揚援護院技手ニ同官等俸給ヲ以テ任ゼラレタルモノトス

前項ノ規定ハ文官任用ノ資格ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ゲズ